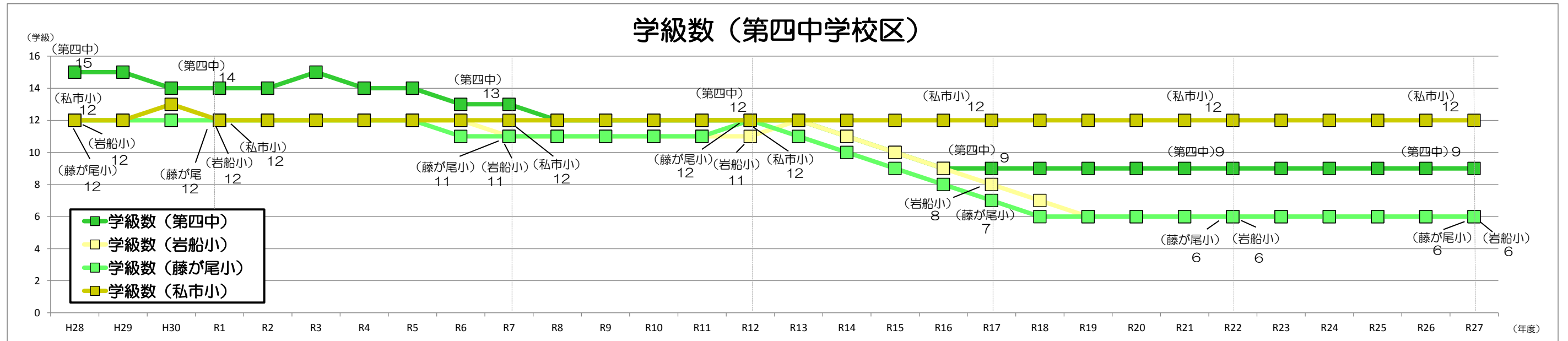
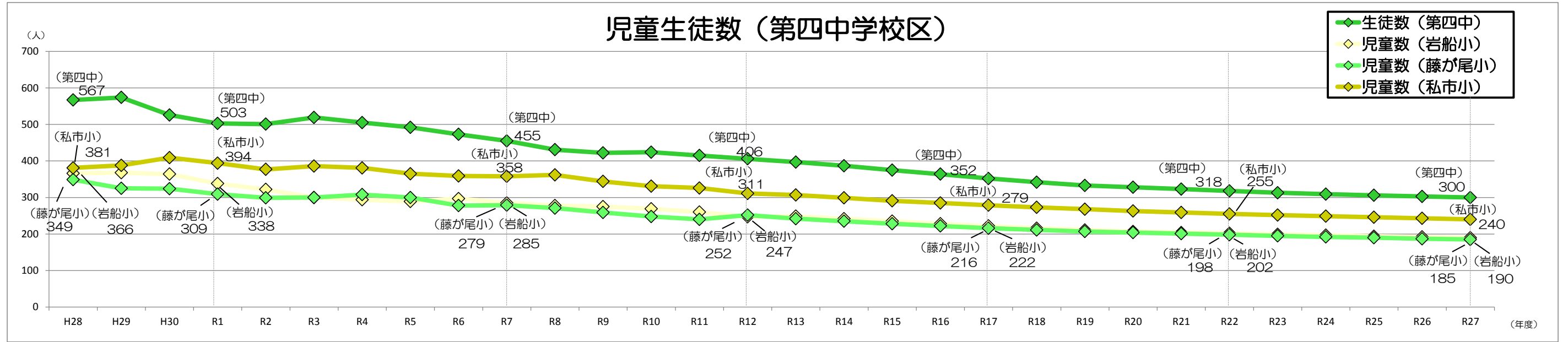


第四中学校区の現状資料

第四中学校区の子童生徒数・学級数

R1.5時点



	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27
第四中学校	生徒数	567	574	526	503	501	519	505	492	473	455	431	422	424	415	406	397	387	375	364	352	342	333	328	323	318	313	309	306	303	300
	学級数	15	15	14	14	14	15	14	14	13	13	12	12	12	12	12	12	11	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
岩船小学校	児童数	366	368	364	338	322	300	294	289	297	285	278	275	269	260	247	249	242	235	228	222	216	211	207	204	202	199	197	194	192	190
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	12	11	10	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6
藤が尾小学校	児童数	349	325	324	309	299	300	308	300	278	279	271	259	248	240	252	242	235	228	222	216	211	207	204	201	198	195	192	190	187	185
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	12	11	10	9	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
私市小学校	児童数	381	388	409	394	377	386	381	365	359	358	362	344	331	326	311	307	299	291	285	279	273	268	263	259	255	252	249	246	243	240
	学級数	12	12	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

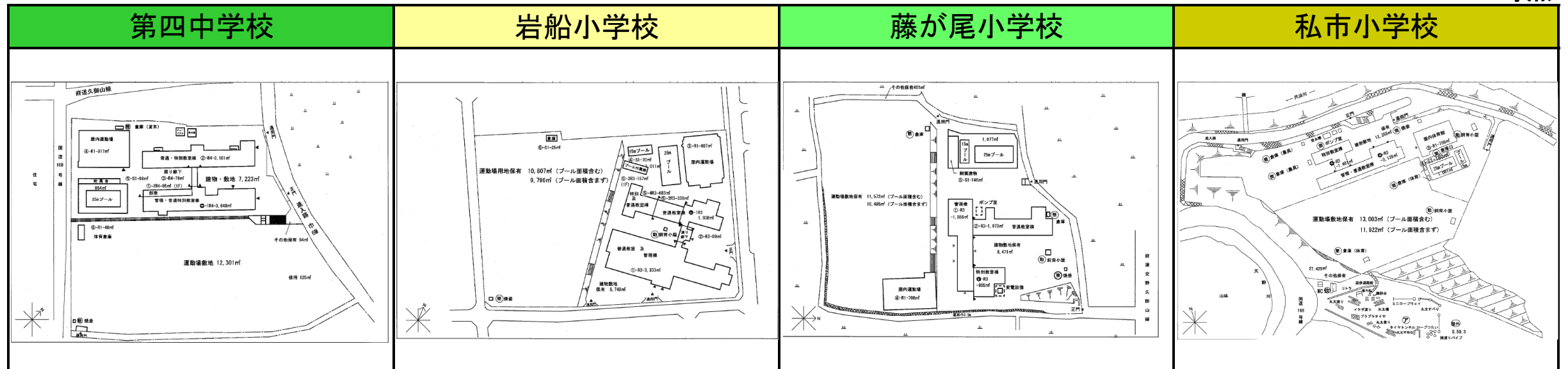
※H28～R1については、各年5月1日の実数
 ※児童生徒数には、支援学級児童生徒数含む。
 ※学級数には支援学級数を含まない。

学校規模適正化基本方針（望ましい学校規模について）

	小規模	適正規模
小学校	11学級以下	12学級以上24学級以下 (1学年あたり2～4学級)
中学校	8学級以下	9学級以上18学級以下 (19学級以上24学級以下も許容範囲とす)

第四中学校区の学校施設

H31.3時点



		第四中学校	岩船小学校	藤が尾小学校	私市小学校
敷地面積		19,618m ²	16,545m ²	19,367m ²	51,706m ²
運動場面積		12,301m ²	9,796m ²	10,495m ²	11,926m ²
延床面積		8,094m ²	6,511m ²	5,702m ²	5,551m ²
建築年度	校舎※1	1982(S57)年(建築後36年)	1971(S46)年(建築後47年)	1977(S52)年(建築後41年)	1979(S54)年(建築後39年)
	体育館	1982(S57)年(建築後36年)	1972(S47)年(建築後46年)	1978(S53)年(建築後40年)	1979(S54)年(建築後39年)
長寿命化判定	校舎	○	○	○	○
	体育館	○	×	○	○
長寿命化した場合の残存年数	校舎	44年(建替時期:令和44年)	33年(建替時期:令和33年)	39年(建替時期:令和39年)	41年(建替時期:令和41年)
	体育館	44年(建替時期:令和44年)	—	40年(建替時期:令和40年)	41年(建替時期:令和41年)
健全度評価※2	校舎	72	62	59	59
	体育館	92	75	75	83

※1 校舎の建築年度は棟別に異なるため、延床面積1,000m²以上の棟のうち、もっとも古い棟の建築年度を記載している。

※2 健全度評価は、平成30年10月末時点における、各棟で②の部位ごとに、①の種別で評価し、③の式で健全度を評価。

※3 校舎の健全度評価は、下の式にて算出。

$$\frac{\{面積_{(棟1)} \times 健全度_{(棟1)} + \dots + 面積_{(棟n)} \times 健全度_{(棟n)}\}}{面積_{(棟1 + \dots + 棟n)}} = 校舎の健全度$$

①部位の健全度

評価	健全度
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	7.2
2 外壁	14.9
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 給排水設備	6.0
6 空調設備	1.0
7 昇降機その他	0.5
計	60.0

③健全度

$$\frac{\text{総和(部位の健全度} \times \text{部位のコスト配分)}}{\text{評価対象部位がオールAの点数}}$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。

※健全度は、数値が大きいほど健全、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

A: 概ね良好

B: 安全上、機能上、問題なし

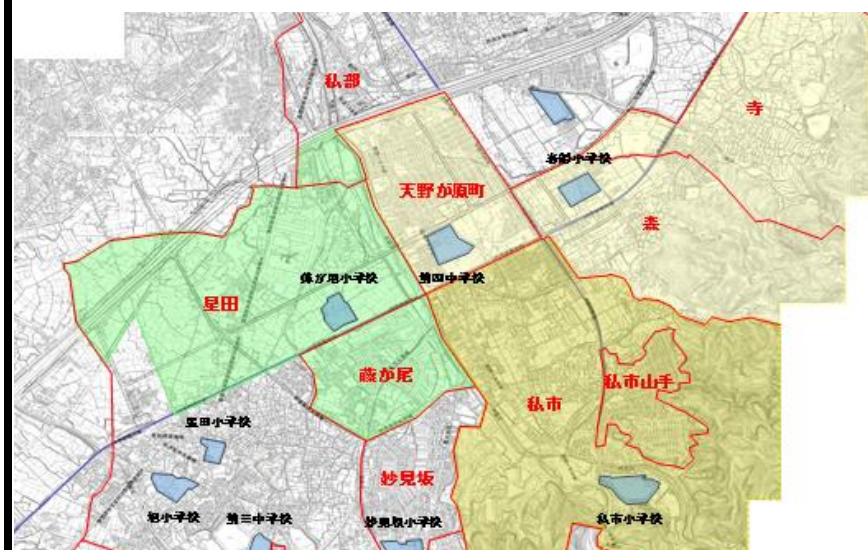
C: 安全上、機能上、劣化の兆しがみられる

D: 劣化の程度が大きく、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある

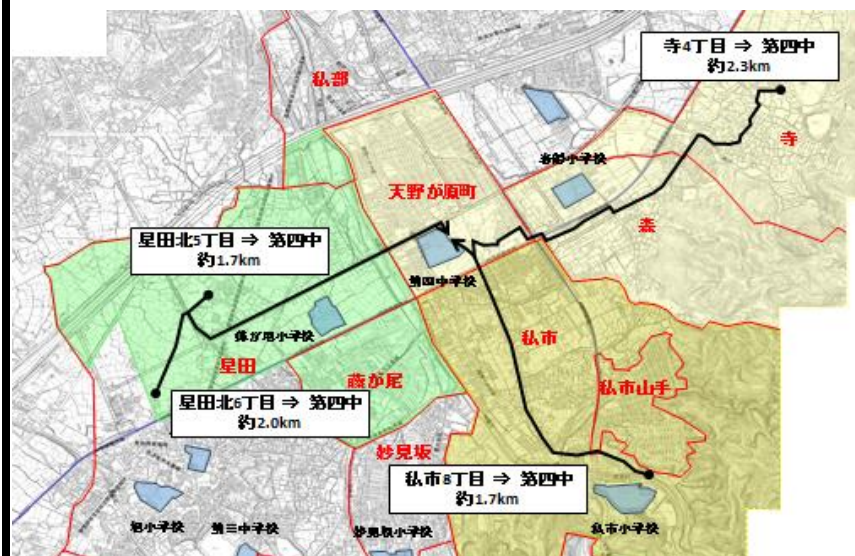
第四中学校区の地区・校区・通学距離

H31.3時点

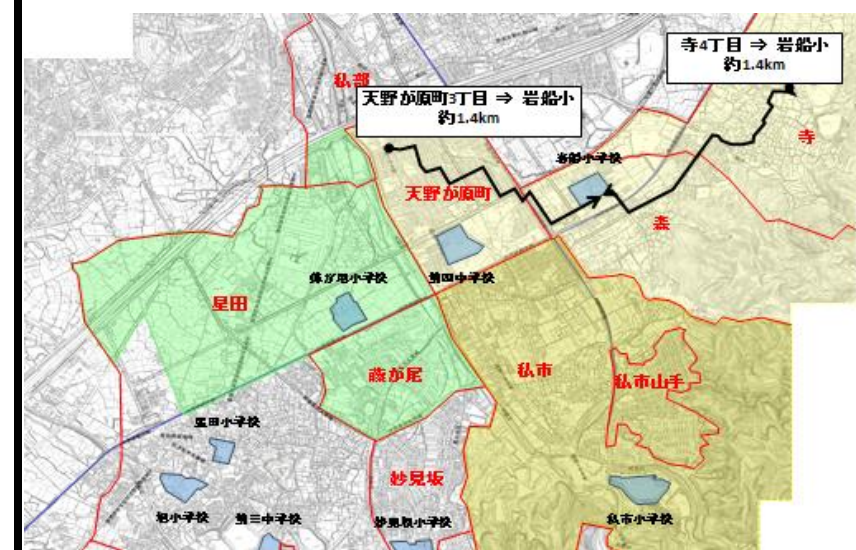
(1) 第四中学校区の地区図・小学校区図



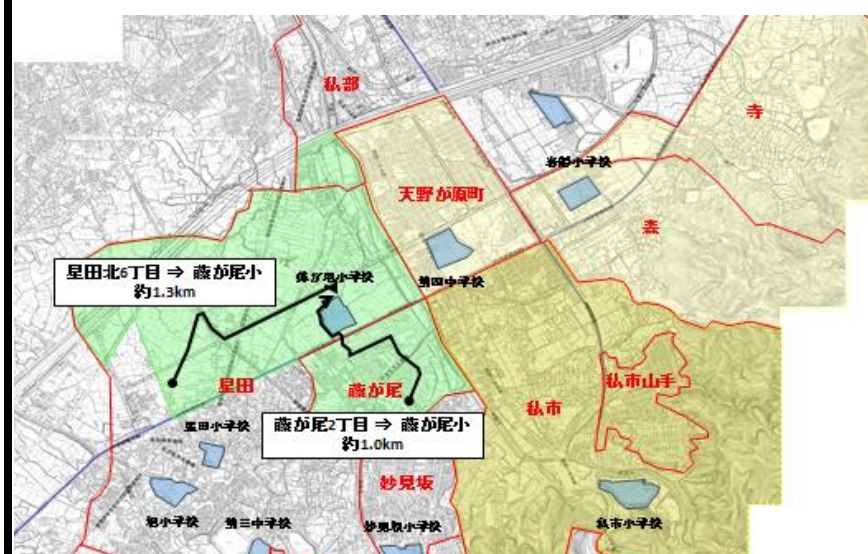
(2) 第四中学校への通学距離



(3) 岩船小学校への通学距離



(4) 藤が尾小学校への通学距離



(5) 私市小学校への通学距離



【地域の課題】

星田地区…星田北7丁目を除く、星田北地域は藤が尾小学校区(第四中学校区)であるなど、4小学校区、

学校規模適正化基本方針 (望ましい通学距離について)

小学校	2km以内を基本とし、3km以内を許容範囲
中学校	3km以内を基本とし、4km以内を許容範囲